



伊藤秀吉 著

紅燈下の彼女の生活

昭和六年九月一日発行

日本廢娼運動史

昭和六年七月一日発行

不二出版

日本廢娼運動史

廢娼會常務理事 伊藤秀吉 著

廢娼會婦人矯風會廢娼聯盟

公娼問題及び
廢娼運動研究の二大名著

完全復刻！

増刷出来！

●『紅燈下の彼女の生活』 目次より

第一編 公娼沿革史

売淫の種類 売淫の起原 日本売淫史

公娼制度史 娼妓解放令

第二編 公娼制度の現状

風紀関係現勢

貸座敷免許地 娼妓貸座敷芸妓酌婦数調

遊客数及消費高調 風紀関係諸調査 花柳病関係諸調査

植民地風紀状態調 在外醜業婦調

娼妓に関する調査

娼妓の前職業調 娼妓修学調 娼妓年齢調

娼妓稼業継続年数調 娼妓稼業及登録調

娼妓になる動機調 娼妓になる手続 娼妓の収支調

現行法規

第三編 公娼廃止論

序論 人道上より観たる公娼問題

本質上より観たる公娼問題 風紀政策上より

観たる公娼問題 性懲政策としての公娼問題

社会衛生上より観たる公娼問題 国际上より

観たる公娼問題 社会問題と公娼問題

娼妓後の私娼問題 存娼論の枝城

救済上より見たる公娼問題 売笑対策の根本研究

第四編 公娼運動史

娼妓運動の大観 第一期及第二期時代

自由廃業運動時代 廓清会の発会時代

娼妓連盟時代 娼妓連盟新戦術の成功

対帝国議会運動 結論

●『日本娼妓運動史』 目次より

第一章 娼妓運動の大観

娼妓運動の意義 公娼制度の組織 各白熱期と其時代思想

各時代の中心人物

第二章 娼妓運動前史

佐賀藩の娼妓 米沢領赤湯の娼妓

井伊掃部頭直弼の佐野領娼妓

長岡藩及会津藩の娼妓 娼妓解放令

第三章 群馬娼妓時代史

埼玉の娼妓実施 娼妓建議の始め

群馬の娼妓運動

第四章 婦人矯風会誕生時代

婦人矯風会起る 群馬の娼妓実施戦

全国各地娼妓運動の蜂起 娼妓建議の設置

第五章 自由廃業運動時代史

群馬県の対再興戦 埼玉県の対置娼妓 自由廃業の始め

廃業の父モルフィ氏起つ 救世軍の血の雨

二六新報社の活動

第六章 廓清会発会時代史

再び群馬県の非公娼戦 曾根崎遊廓の廃止

吉原遊廓全焼 廓清会起る

難波新地遊廓の廃止 祝融の災禍頻々

悲壮なる人道戦の犠牲 花魁道中の禁止

芸妓排斥運動 飛田遊廓反対運動

警視庁の公娼拡張

海外醜業婦問題と貞操保護運動 その後の娼妓運動

第七章 娼妓連盟時代史 (上)

大震災後の遊廓復興反対運動 島田廓清会長の逝去

矢島矯風会頭の逝去 当業者の対抗運動

婦女禁売条約の国辱的加盟

婦人矯風会の活動振り 警察部長会議の諮問

廓清会婦人矯風会連合会

各方面の娼妓決議

男子貞操義務の新判決 二業地新設反対運動

光の家及婦人ホームの貢献

花柳病予防法の制定

第八章 娼妓連盟時代史 (下)

娼妓連盟新戦術の成功 目標県埼玉の娼妓成る

府県娼妓運動 娼妓連盟事業報告

第九章 帝国議会に対する運動

矯風会の二個の請願 飛田遊廓取消請願並質問

公娼廃止の質問戦 娼妓建議案始めて出づ

処女保護法案 遊廓復興反対運動

公娼制度制限法律案 婦女禁売と娼妓取締規則改正案

公娼制度制限並廃止法律案 普選第一次の議会戦

相変らずの議会 議会運動始めて曙光

第十章 結論

前三年後五年の財務部運動

娼妓運動の前途赫々

公娼制度とのたたかい

●すいせんの言葉

高橋喜久江・日本キリスト教婦人矯風会

娼妓運動家、伊藤秀吉氏の名著『紅燈下の彼女の生活』『日本娼妓運動史』の二冊が、このたび不二出版から復刻されることになったのはまことに喜ばしい。同書は『娼妓運動』を引き継ぎ取り組んでいる私たちにとつては必読の書であり、また娼妓運動の研究にとつても貴重な文献である。ところが現存する原本はわずかで入手にきわめて困難であった。その意味で同書の復刻は運動や研究に大いに貢献するであろう。

伊藤秀吉氏が雑誌『廓清』の編集や著者で生涯をかけて主張したことは何か。売春業者の存在とそれを許す政策の弾劾である。すなわち公娼制度の犯罪性と、それを糊塗しようとする政府や行政機関の欺瞞を摘発した。そして娼妓実現の方向をデンマーク、カナダを始め各国娼妓の歴史の実態を辿ることで立証しようとしている。

読者はこれらの著作を過去の名著として読むのみでなく、現在の問題に置き換えて、著者の意図を読みとつてほしい。そして売買春をなくすための行動を起こしてほしい。

吉見 周子 ●早稲田大学非常勤講師

女性問題の原点としての娼妓運動

戦後五十年、「従軍慰安婦」の問題が大きく取り上げられ、この八月から「女性のためのアジア平和国民基金」の募金活動が始められるという。

そもそも日本には室町時代における集娼制度、江戸時代の吉原の開設など、公認された遊廓Ⅱ公娼制度として買売春が公然とおこなわれていた。

人びとは遊廓のあることを不思議とは思わず、むしろ女性を金で買って遊ぶことが『男の甲斐性』とさえ思われ、誇らしげに語られてきた。

明治になつても、女を売買することを恥としない為政者や業者の執拗な在娼運動は、必要悪として意義づけられ、買売春をなくすどころかますます繁栄をみたのである。

また娘にしても孝行の觀念に美化され娼妓の道にはまりこんでいった。

一方明治維新以後、キリスト教の流入は日本人の倫理觀に質的な変化をもたらし、新しい視点から娼妓運動がおこった。一九一(明治四四)年吉原遊廓の全焼を機に、娼妓を目的とした強固な組織と統制のため『廓清会』が発足した。

伊藤秀吉氏は娼妓運動に情熱を燃やし、一九一七(大正六)年廓清会の常務理事となり、生涯をかけて娼妓の主張と運動を続けられた。

女性問題といえ、女性解放論、婦人参政権運動、女子教育、母性保護など、さまざまな視点から研究されているが、基本的な人権としての『性』の問題こそ原点であるといえよう。

最近、大学の卒業論文に男子学生が『娼妓運動』を歴史的に研究するのがみられる。文献として伊藤秀吉氏著『紅燈下の彼女の生活』『日本娼妓運動史』が必読の書であることを薦めている。

●伊藤秀吉略年譜

- 一八八六(明19)年 二月一日、福岡県久留米市京町に生まれる。
- 一九〇一(明34)年 早稲田中学校夜間部に入学。
- 一九〇三(明36)年 一八歳で共立女子職業学校和裁科の学生(二〇歳)と結婚。
- 一九〇七(明40)年 満鉄入社。長男秀行生まれる。島田三郎、安部磯雄が来訪、日本人売春婦を托される。
- 一九〇九(明42)年 秀行、栄養失調により死亡。
- 一九一〇(明43)年 次男秀文生まれる。
- 一九一(明44)年 廓清会設立、機関誌『廓清』発行。
- 一九二(明45)年 キリスト教系の青年鉄道会奉職。
- 一九四(大3)年 『娼妓自由廃業案内』刊行。
- 一九七(大6)年 廓清会常務理事に就任。
- 一九二〇(大9)年 神田区今小路より小石川区大塚仲町に転居。
- 一九二二(大11)年 妻さん、万国婦人矯風会(米国ワシントン)に出席、一年留学する。



伊藤秀吉

一九二二(大12)年 さん、米国より帰国。廓清会事務所震災で焼かれ、小石川区大塚仲町に移す。

一九二五(大14)年 『売淫公認制度廃止意見』『日本の公娼制度』刊行。

一九二八(昭3)年 『貸座敷業者諸君に与ふ』刊行。

一九三〇(昭5)年 『芸妓設置反対論』刊行。

一九三一(昭6)年 『日本娼妓運動史』『紅燈下の彼女の生活』刊行。

一九三二(昭7)年 『娼妓善後策』刊行。

一九三三(昭8)年 『秋田県娼妓頭末』刊行。

一九三六(昭11)年 『長崎県娼妓頭末及其成績』刊行。

一九三七(昭12)年 『売淫公認制度廃止論』刊行。

一九五三(昭28)年 『売春のない日本に』刊行。

一九五九(昭34)年 藍綬褒章を受ける。

一九六四(昭39)年 三月二日、妻さん死去。

一九六六(昭41)年 一月十四日、秀吉死去、七九歳。

●復刻版概要

『紅燈下の彼女の生活』

四六判函入

六九四ページ

本体価格

八、〇〇〇円

『日本娼婦運動史』

四六判函入

六一〇ページ

本体価格

七、〇〇〇円

解題

高橋喜久江

〈日本キリスト教婦人矯風会〉

『紅燈下の彼女の生活』
表紙カット

紅燈下の彼女の生活
紅燈下の彼女の生活

関連図書のご案内
〈復刻版〉

廓清 全三巻・別冊一

明治四四年、吉原の大火をきっかけに「遊廓」の驚くべき実態が
明るみに出た。悲惨な娼妓の生涯、検梅制度、業者と警察の結託……。
ここに廓清会は設立され、月刊誌『廓清』は以後三〇年、
昭和二〇年に至るまで底辺の女性救済を叫びつづけた。

廓清会本部発行
完全復刻版

体裁—B5判上製

各冊平均五〇〇頁

定価—四九五、〇〇〇円セット価格・分売不可

好評発売中!

●本カタログ中の表示価格は、
全て消費税を含んでおりません。
●弊社は注文制です。
お近くの書店にご注文ください。

丕出版

〒113 東京都文京区向丘1-2-11
電話03-38244333
ファクシミリ03-3824464
振替00160294084